

ホオズキ栽培での草マルチによる泥の跳ね上げ抑制

農業研究部・花きグループ

1. 研究の背景

ホオズキ栽培はハウス栽培が中心であり、ハウス建設費の高騰が新規栽培者の参入、戸別規模拡大の妨げになっている。そのため、露地での栽培を可能にする栽培技術の開発が求められている。露地における主要病害である斑点細菌病の耕種的防除方法として、草マルチの効果を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

ナギナタガヤの2021年11月29日播種（3kg/10a相当、発芽不良により2022年2月2日追加播種）、マルチムギ（コムギ「てまいらず」）2022年2月15日播種（3kg/10a相当）は、水と泥の跳ね上げ抑制効果が認められ、特に泥の跳ね上げを抑制した（表1）。

ナギナタガヤは旺盛に生育してホオズキの生育を阻害し作業性も劣った（データ省略）。梅雨期の6月にはマルチムギは十分に生育した（図1）。

斑点細菌病が発生する条件下で再検討が必要であるが、泥汚れの防止効果は期待できる。

マルチムギは畝立て後2月中旬に播種すると、栽培管理に支障がなく泥の跳ね上げ防止効果がある（図2）。

表1 水滴、泥の跳ね上げ調査（2022）

	調査日	ナギナタガヤ	マルチムギ	露地
感水紙1cm ² あたり水滴数	7/5	13.4	36.2	17.6
	7/19	0.5	2.9	2.1
感水紙1cm ² あたり土付き水滴数	7/5	0	0	0.1
	7/19	0	0	0.1
画像ソフトによる泥数（カウント数）＊	7/5-6	21	31	155
画像ソフトによる泥面積（ピクセル数）＊	7/5-6	259	544	4351

注 3反復平均値

＊直径9cmシャーレを撮影、ImageJにより2値化画像の点数、ピクセル数を計測



図1 6月21日の状況（2022）

注 手前からマルチムギ、露地、ナギナタガヤ

	1月			2月		
	上	中	下	上	中	下
ホオズキ	～畝立て					
マルチムギ				播種		

	3月			4月		
	上	中	下	上	中	下
ホオズキ				定植		
マルチムギ						

図2 作業時期の目安（2022）

3. 期待される効果

水田畑地化に対応したホオズキの省力栽培技術として指導に資することができる。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 花きグループ
TEL 0977-66-4706 FAX 0977-67-5218 住所 別府市大字鶴見710-1